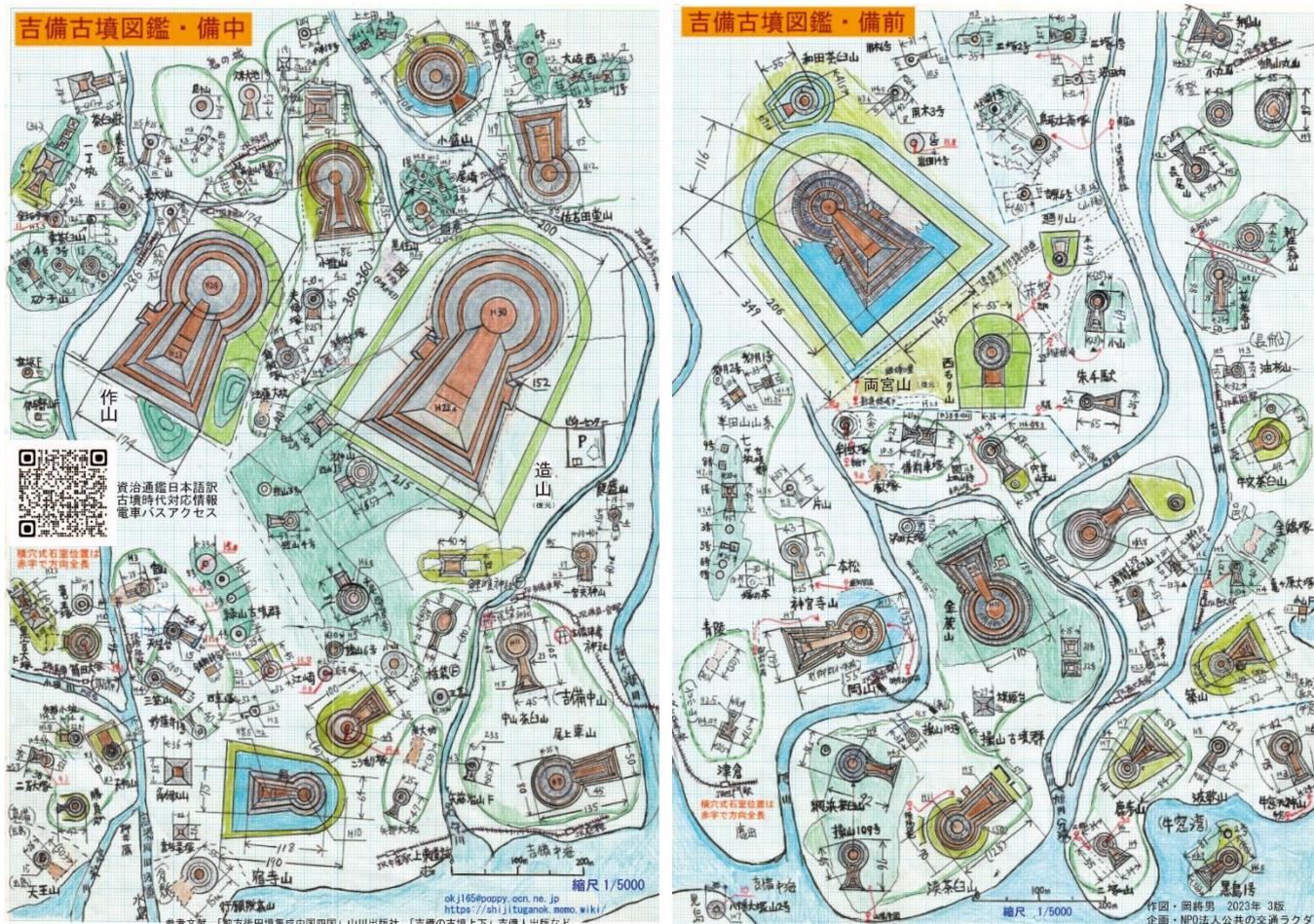


吉備古墳図鑑とバス交通の存在



■全国には 16 万基もの古墳があり、前方後円墳も 5000 ほど在る。倉敷市庄新町にある楯築墳丘墓は全長 80m の弥生時代最大の墳丘墓で、特殊器台と円筒埴輪のルーツや弧帯文石があり、その文様が古墳時代の直弧文に繋がるなど古代のデザイン革命が起こった遺跡である。50 年ぶりに発掘調査報告書が出て、九州との関係などもあきらかになった。楯築遺跡から倭国が始まり、古墳時代が始まったともいえる。だが墳丘上には乱開発時の給水塔が建ち、景観を台無しにしていた。またこの遺跡に行くバスは廃止されて、J R 吉備線・山陽線の駅からも遠い。

■楯築遺跡から 2 km の造山古墳は全国第 4 位の 350m の墳丘長の大王墓の可能性もある前方後円墳で、登れる古墳では日本一の規模だが、やはりバスは無い。赤磐市の両宮山古墳にはすぐ脇にバスが走るが、一般には知られていない。

■2023 年 1 月 28 日に岡山大学で開催された「楯築ルネッサンスフォーラム」では、第一部で国立歴史民俗博物館・松木武彦教授が「楯築遺跡は倭王の墓か？～吉備から始まる新しい日本史～」と題する基調講演。第二部では「巨大モニュメント楯築に現れた新しい宗教と美意識、そして吉備の女性像の過去と未来」とのパネル討論。第三部では「キーマンが語る吉備の未来予想図」と題して討論し、倉敷市長から楯築遺跡給水塔撤去、赤磐市長からカフェの設置などの方針が表明され、古代遺跡を活用した観光振興や吉備路全体の地域振興を目指した議論が行われた。電車バスの無いこだわり観光地は、将来選ばれない。

■RACDA では吉備古墳図鑑を発行し、岡山駅のももたろう観光センターや造山古墳ビジターセンター・禁酒会館でも配布している。「資治通鑑」ホームページには、鉄道バスアクセス情報も公開している。(岡将男)

